



はしか^{ましん} (麻疹)



はしかは麻疹ウイルスによって引き起こされる感染症で、39℃から40℃の高い熱が1週間ほど続きます。感染力はインフルエンザより非常に強く、一人の患者は12～16人に感染させる力があります。空気感染、飛沫感染、接触感染でうつり、免疫がなければ10日間前後の潜伏期間の後に発症します。

はしかは1～3日間の発熱の後、発疹が出る4日目くらいになって診断されます。最初の1～3日は最も感染力が強いにもかかわらず、はしかであることに気がつかずに行動し感染を広げる結果となります。

合併症は麻疹ウイルスによる肺炎、脳炎のほか二次感染による細菌性肺炎、中耳炎、心筋炎、亜急性硬化性全脳炎（SSPE）等で、死亡率は0.1～0.2%です。

はしかの治療は対症療法しかありませんが、ワクチンで予防することは可能です。

1歳の誕生日には第1期のワクチン接種を受けましょう。小学校入学前の1年間で第2期です。年長児クラス（5歳児）になったら、2回目のワクチンを必ず受けましょう。



亜急性硬化性全脳炎（SSPE）は、はしかが治った後10年ほど経って発症します。さらに10年ほど経って亡くなる病気です。ワクチンを接種し、はしかに罹らないことで予防できます。

